

須留が峰



校訓 「自立 協同 創造」
校是 「生きるとは 分かちあうこと」

養父市立養父中学校 学校だより
(令和7年6月24日) 第12号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

但馬吹奏楽祭

6月15日(日)、豊岡市民会館で但馬吹奏楽祭が開催され、吹奏楽部の生徒が見事な演奏を披露しました。曲目は八木澤教司氏作曲の「希望のすべてに」。美しい音色がたいへん印象的で、大きな拍手が寄せられました。また、会場には藤本和隆前校長先生のお姿もあり、たいへん嬉しくなりました。

さて、近年では少子化に伴う部員数減少から合同で参加する学校が多くなってきました。市内では八鹿青溪中学校と関宮学園が合同で今回の但馬吹奏楽祭に臨んでいましたし、市外に目を転じて、中学校と高校との合同、高校どうしの合同が見られました。少子化の勢いは全国的にもすさまじく、合同での部活動が但馬各地、県下各地に広がっています。これが部活動の地域移行(地域展開)の話が具体化していった大きな要因のひとつなのです。



読考書「やくせなかった言葉～『いただきます』～」

学校だより「須留が峰」第9号(5月27日発行)で紹介させていただいた新聞記事「やくせなかった言葉～『いただきます』～」を朝活動の読考書で扱いました。生徒の感想を校長室まで持ってきてくれた担任が居ましたので、以下に一部を掲載します。

- 「いただきます」を訳すことができないのは、たくさんの意味が込められているからだと思いました。たくさんの「ありがとう」が込められている言葉が日本語であることに誇りを感じます。
- 給食の時に使う「いただきます」には、いろいろな“ありがとう”という気持ちがあって、その「いただきます」は日本語でしか表せない気持ちだと知りました。
- この作文を読んで、「いただきます」は英語に訳せない特別な日本語だと知って驚きました。なぜなら私たちはいつも当たり前のようにこの言葉を言っているからです。でもあらためて考えてみると、ご飯にはたくさんの命があります。だから適当に「いただきます」を言うのではなく、心から感謝して言いたいです。
- 「いただきます」が訳せないとは初めて知りました。そして、「いただきます」は特別な日本語でこの文章を読んで誇りに思いました。「Let's eat」は「Let's」が入っているから「～しよう」「～しましょう」となり、たしかにおかしいと考えました。この作文を読んで、「いただきます」「ごちそうさま」のたった6文字だけど大切にしようと思いました。
- 日本語というのはあらためて難しい言語だと思いました。「いただきます」は、食事をする時に「さあ、食べよう」などの意味と違い、いただいている命やそれに関わる人々に対しての「ありがとう」を含んでいるからです。
- 「いただきます」は日本語でしか表せない特別な感謝のしかたなのだと思います。「いただきます」「ごちそうさま」をきちんと毎食言っていきたいと思いました。

学習評価、評定について

早いもので1学期も後半になりました。そこで、学習評価、評定の在り方について説明させていただきます。



1. 評価の方法

評価は、「目標に準拠(じゅんきょ)した評価」で行います。「目標に準拠した評価」とは、各教科の目標にどの程度到達しているかを数値化して評価する方法です。生徒の到達度を個別にそれぞれ評価することから、例えば「5」が何人といった人数の制限(相対評価)は設定していません。

2. 観点別評価について

各教科の評価は、

- ① 基礎的・基本的な知識および技能
- ② 思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

※令和7年4月18日付 学校だより「須留が峰」第3号参照。

※学校教育法第30条で規定されている“学力の3要素”。

の3観点で、各観点ともA(十分満足できる)・B(おおむね満足できる)・C(努力を要する)の3段階で評価します。この3観点は相互に関連し合っているため、「A・A・C」「C・C・A」のように、特定の観点の評価が極端に良くなったり、悪くなったりすることはありません。

3. 教科の評定について

観点別評価の到達度をもとに、各教科の5段階評定を算出します。

- 「5」・・・ 充分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの
- 「4」・・・ 充分満足できると判断されるもの
- 「3」・・・ おおむね満足できると判断されるもの
- 「2」・・・ 努力を要すると判断されるもの
- 「1」・・・ 一層努力を要すると判断されるもの



4. 道徳科(「特別の教科 道徳」) ※深刻化するいじめ問題を背景に平成31年度(2019年度)に教科化されました。

道徳科の学習状況や道徳性に係る(関係する)成長の様子を継続的に把握した上で、数値評価ではなく、個人内評価による文章記述で毎学期行います。ちなみに、かつて道徳科が教科化されるまでは学習の評価を生徒や保護者に示すことはありませんでした。

5. 総合的な学習の時間

学習活動及び評価の観点を記入した上で、学年末に文章記述で評価します。

教師はテスト(中間テスト・期末テスト・課題テスト等)だけで生徒の学習成果を評価するのではなく、日頃の授業の様子やノート点検、作品観察等でも生徒の学力を見取って評価しています。そして、その結果を生徒に返すだけでなく、教師自らの授業を改善していくための材料にもしています。それが、“指導と評価の一体化”の考え方であり、養父中学校の教員が大切にしている精神です。つまり、学習評価や評定は生徒のためだけではなく教師のためにも存在しているのです。

